

公益社団法人 日本放射線腫瘍学会

2024 年度(2024 年 9 月 1 日～2025 年 8 月 31 日)事業報告(全体)

ア. 学会等の学術的会合の開催

学術大会、各部会(小線源治療部会、生物部会、高精度放射線外部照射部会)学術大会を各 1 回開催したほか、関連学会(国際関連含む)との合同シンポジウムを開催し、学術研究の発表・検討の場を提供して、放射線腫瘍学の先進的・国際的な研究促進を支援した。

イ. 学術研究の支援(個人への研究費助成)

①研究課題の助成事業(公募)

放射線腫瘍学に関連する各種の研究、課題に対して、必要資金の一部を助成した。

②他領域関連学会発表助成事業(推薦)

他科における放射線治療への関心、専門知識の普及のため、他学会にて優れた研究発表を行う会員を助成した。

③阿部賞・梅垣賞:研究顕彰事業

放射線腫瘍学における広範な研究を対象とし、大きな貢献を果たしている研究、又は将来発展が期待される先駆的な研究に対して、研究奨励金を助成した。

④海外研修助成事業(公募)

放射線治療に関する臨床・研究に従事する海外研修を希望する個人への助成者を決定した。

ウ. 学術研究の支援(外部研究会・団体への費用助成)

放射線腫瘍学の研究や放射線治療の普及・啓発を目的とした活動を行う外部の研究会・団体に対して、費用支援した。

エ. 学術雑誌等の発行

【事業内容等】

①英文雑誌等発行:放射線科学に関連した研究活動の成果を世界に向けて発信することを目的とした英文学会誌;Journal of Radiation Research(JRR)を、日本放射線影響学会との共同事業により、計 6 巻発行した。その他学会広報誌ニュースレター(年 4 回)を刊行し、メールマガジン JASTROgram を配信した。

②論文関連顕彰事業:英文誌の普及のため、Highly Cited Award、優秀査読者賞、優秀論文賞顕彰事業を行った。

オ. がん等の放射線治療についての普及・啓発活動

①放射線治療広報事業

・放射線治療についての一般の方々へ理解・普及を目的として、動画(アニメ含む)・漫画冊子・パン

フレットを当会ホームページ(HP)に掲載し、これらを広く配布した。また、学術大会において市民公開講座を開催した。

- ・プレスカンファレンスを実施し、プレス向け情報発信を行った。
- ・医学生・研修医へのがん等の放射線治療についての啓発活動の場として、医学生・研修医のための放射線治療セミナーを開催した。
- ・緩和的放射線治療普及のため、非会員を含む緩和医療医療関係者へ向けたリーフレット、好事例集の配布や HP 改訂を行った。

②地域における放射線治療の普及・進展

「地域貢献賞」の顕彰事業を行った。

カ. がん等の放射線治療の標準化に資する事業

【事業内容等】

①治療計画ガイドライン・用語集(略語集)等 整備

- ・放射線治療、関連の各治療ガイドラインを作成し、放射線治療用語・略語集を適宜改訂した。
- ・放射線治療の体系的な分類のため放射線治療試案を作成した。

③安全で適切な放射線治療の提供

- ・当学会「認定施設」の認定作業を実施した。

④データ収集と分析

- ・全国的な放射線治療全般(RI 内用療法含む)の症例データを構造調査事業および放射線治療症例全国登録、その他アンケート事業を通じ、収集・分析し、臨床研究や政策立案に活用した。
- ・粒子線治療の先進医療の枠組みで治療患者の全例登録を実施し臨床研究を実施し、粒子線治療全例登録(統一治療方針)によるエビデンス創出に努めるとともに、システマティックレビュー等も実施した。
- ・診療報酬改定に関わる諸作業を行い、医療技術提案書を提出した。また様々な医療技術について費用対効果分析を実施した。
- ・放射線治療領域の AI-研究用データベースシステム構築より集積したデータを元に、AI 研究を実施した。

⑤治療計画や線量分布の品質評価(QA)体制の強化

- ・放射線治療診療の質指標 Quality Indicator を用いた WEB 解析システムによる全国調査を行い、結果を解析した。
- ・第三者出力線量評価認定施設および認定第三者出力線量評価認定機関の認定を行った。

⑥日本専門医機構認定放射線治療専門医の二次審査事業 等

- ・日本専門医機構サブスペシャルティ領域の放射線治療専門医資格の二次審査事業を実施した。また日本医学放射線学会との共同認定の放射線治療専門医更新申請においても認定事業を実施した。

⑦教育事業における人材育成

- ・放射線治療従事者の専門的知識・技能等を統一・標準化する教育を目的として、教育講演、各教育セミナー(小児がん放射線治療セミナー、放射線生物学セミナー、放射線治療・物理学セミナー、放射線腫瘍学夏季セミナー、RI 内用療法セミナー、小線源治療ハンズオンセミナー、脊椎 SBRT ハンズオンセミナー、看護セミナー)を開催した。
- ・専門的な放射線治療技術普及のため、教育動画・コンテンツを当会ホームページに掲載した。
- ・放射線治療における機器の精度管理、照射計画の検証、照射計画補助作業等を担当する技術者の認定資格整理の方向性について関連学会と共に、検討した。

キ.その他当法人の目的を達成するために必要な事業

- ・事務手続きの効率化・迅速化のためオンラインシステムによる利益相反(COI)申告を実施した。
- ・常勤医の少ない施設・地域におけるサポートのため、症例相談窓口を WEB サイト設置した。
- ・新規事業、新予算を、理事会審査前に、財務委員会、新・総務委員会にて予備審査を行った。

2024年度(2024年9月1日～2025年8月31日) 各事業(委員会/部会) 活動報告

【事業部門】

■ 編集委員会(委員長:佐々木 良平→小川 和彦)

- Journal Radiation Research 誌(以下 JRR 誌)を以下の通り刊行した。
2024 年 Volume65(5)～Volume65(6)、2025 年 Volume66(1)～Volume66(4)の計 6 巻を刊行した。
- JRR 誌の 2024 年の採択率は 30%(腫瘍学関係 30%、生物学・物理学関係 30%)であった。
2023 年の採択率は 32%(腫瘍学関係 26%、生物学・物理学関係 38%)
- 2024 年は Oncology 分野として、176 編の査読を行った。
- JRR 誌のインパクトファクターは 2.0 (2024 年)となった(2023 年 1.9)。尚 5 年のインパクトファクターは 2.2 である。
・ IF 順位 45 位/107 誌 <分野: Biology> ・ IF 順位 110 位/204 誌 <分野: Radiology, Nuclear Medicine & Medical Imaging> ・ IF 順位 232 位/326 誌 <分野: Oncology>
- JRR 誌の「2025 年 Highly Cited Award」(1 名)と「2025 年優秀査読者賞」(5 名)を選出し、理事会へ上申した。
- 「2025 年 JRR 誌優秀論文賞」の公募を実施し、2 名を推薦・理事会へ上申し、選出した。
- JRR 誌の寺島論文賞を選出した。
- JRR 誌の managing editor の交代(新任: 10 名、退任と associated editor 新任: 3 名、退任: 6 名)を行った。
- JRR に関する APC(article processing charge)支援について、日本放射線影響学会と協議したうえで 2026 年度からより有効に活用していく方針が決定された。具体的には、前年(1 月～12 月)に出版された論文数の 10%に相当する論文数の APC を翌年出版の論文で免除する制度を利用することや、原則会員の論文であるが、年間 6 編までは非会員論文でも会員価格で学会が費用を負担できるという制度を利用する、等を日本放射線影響学会と連携して進めていくこととする。

■ 広報委員会(委員長:岡嶋 馨→澁谷 景子)

- Newsletter 通巻 153-156 号(2024 年 No.3～2025 年 No.2)を発刊した。(学会会員専用 HP にも掲載)
- Journal club No.280～No.287 を配信するとともに、当会ホームページ・Newsletter に掲載した。
- JASTRO gram No. 1433～No.1479 を配信した。
- 2024 年 9 月 19 日、東京にて、マスコミ向けプレスカンファレンス 2024(テーマ:第 37 回学術大会ハイライトと肺がんへの放射線治療の進化)を開催した。また、2025 年のプレスカンファレンス開催について検討を行い、学術大会・市民公開講座の見どころを掲載したパンフレットを作成し、厚労省記者クラブや過去のプレスカンファレンス参加者に配布することとした。
- 患者さん・一般向けパンフレット「放射線治療を受けられる方へ」、「がんは放射線治療の時代へ」、漫画冊子体「だから私たちは、放射線治療を選んだ～その時のための、知っておきたい治療のこと～」を広く配布した。
- 学会ウェブサイトの検討箇所(Google 上で「放射線治療」を検索すると JASTRO が TOP に出てこない、他学会ページ上の当会へのリンク状況調査等)について審議した。
- 「患者さんと家族のための放射線治療 Q&A 2025」の出版を行った。

■ 教育委員会(委員長:内田 伸恵→山内智香子)

- がん放射線治療看護セミナーを 2024 年 11 月 2 日(参加者 490 名/和歌山県+ハイブリッド/中村聡明世話人)、2025 年 6 月 21 日(参加者 673 名/WEB/角美奈子世話人)に日本がん看護学会と共催した。
- 第 9 回小児がん放射線治療セミナーを、現地開催(つくば国際会議場)した[2024 年 9 月 14 日/水本齊志世話人(筑波大学)/参加者 194 名(有料)/後日オンデマンド配信あり]。
- 第 15 回放射線生物学セミナーを生物部会と共催にて、ハイブリット開催した[2025 年 3 月 1 日/松本 義久世話人(東京科学大学)/東京科学大 大岡山キャンパス/参加者 80 名(有料)/後日オンデマンド配信あり]。
- 第 13 回放射線治療・物理学セミナーを Web 開催した[2025 年 7 月 5 日/岡本裕之世話人(国立がん研究センター中央)/参加者 398 名(有料)/後日オンデマンド配信あり]。
- 第 26 回放射線腫瘍学夏季セミナーを開催した [2025 年 8 月 2~3 日/齋藤淳一世話人(富山大学)/富山国際会議場/参加者 310 名/後日オンデマンド配信あり]。
- 第 3 回小線源治療ハンズオンセミナーを小線源治療部会と共催した[2024 年 12 月 21 日/伊井憲子世話人/京都府立京都学・歴彩館/参加施設:10 施設 45 名]。
- JASTRO 担当「FARO education and training committee ウェビナー」(2025 年 8 月 27 日、テーマ『Advances and Future Perspectives in Radiotherapy for Intracranial Germinoma』/講師:西岡健太郎委員)を開催した。
- 第 37 回 JASTRO 学術大会にて教育講演を行った[2024 年 11 月 21~23 日パシフィコ横浜ノース/オンデマンド配信あり]。
- 2024 年 11 月 23 日、2025 年 4 月 12 日教育委員会を開催した。
- 2024 年度(2025 年)優秀教育講演賞 3 名を選出し、2024 年度優秀教育発表奨励賞 11 名を選出した。
- 医師・歯科医師、メディカルスタッフ、研究者を対象とする「第 3 回海外研修助成事業」公募(2025 年 4 月 7 日~6 月 23 日)・選考を行い、助成対象者 1 名を理事会に推薦した。
- 教育講演のシラバスを当会ホームページ(会員専用ページ)に掲載した。(希望者には冊子体を配布)
- 先達のスライドアーカイブ事業として「Senior Doctor's Teaching File」の掲載を行った。
- 初学者向け教科書「やさしくわかる放射線治療学」の増刷改訂に向けて準備を行った。

■ QA 委員会(委員長:澁谷 景子→二瓶 圭二)

- 第三者出力線量評価認定作業部会役員・委員の改選のため、推薦案を理事会へ上申した。[理事会承認:新・部会長:二瓶圭二理事、新・副部会長:佐々木幹治会員、黒河千恵会員]
- 第 4 回第三者出力線量評価認定制度認定施設申請の受付を行い、受付期間内(2024 年 12 月 2 日~12 月 20 日)に申請された 5 施設について、第三者出力線量評価認定作業部会にて審査をおこない、理事会審議を経て承認を得た。承認された認定施設 5 施設を学会ホームページへ掲載した。
- 第 5 回第三者出力線量評価認定制度認定施設申請の受付(期間:2025 年 6 月 2 日~7 月 17 日)を行い、申請された 11 施設について、第三者出力線量評価認定作業部会にて審査を行った。
- 某機構による放射線治療の第三者出力線量評価に関する ISO17025 認証制度の検討のためのヒアリングに、新旧 QA 委員長が対応を行った。(当会制度の公平性・信頼性が確認されたため、また某機構が認定制度を整備・維持する社会的ニーズが顕在化していないと判断したため、当面は新制度を開発しない旨報告された)

- 安全かつ効果的な治療を提供するために、国内外で利用されているガイドラインを集約した「放射線治療装置に関する品質保証リスト(点検シート)」を作成し、学会ホームページへ掲載した。
- 放射線治療品質管理機構が取りまとめている、放射線治療計画業務補助者の教育/研修体制の構築に関する関連団体協議の「確認・試験作業部会」参加し、医師派遣依頼に2名を推薦、理事会に上申し、承認された。[村上 祐司理事、安田 耕一代議員]

■ ガイドライン委員会(委員長:井垣 浩→青木 昌彦)

- 「放射線治療計画ガイドライン 2024 年版」(第6版)を発刊した。また、本ガイドラインモニタリング指標に関するアンケート実施準備(項目等作成)を行った。
- 当会直轄のガイドライン名は英語表記を必須とする旨理事会へ上申し、決定した。
- 当会発刊『植込み型心臓電気デバイス装着患者に対する放射線治療ガイドライン 2019』改訂検討 WG を立ち上げ、当会代表を原田英幸代議員とし、日本循環器学会に委員推薦依頼を行った。
- 「前立腺癌に対する放射線治療におけるベリジェルの適正使用指針」について、薬事承認取得後、2施設で臨床使用の実施を経て、検討委員会(青木昌彦担当理事、伊丹純会員、井垣浩代議員、井口治男代議員)における作成案の査読を行った。[最終案を理事会に上申、承認後、HPに掲載]
- 「顎骨壊死診療ガイドライン」(協力:日本がん口腔支持療法学会、日本歯科放射線学会・日本がんサポーターイブケア学会、厚労科研全田班)[WG長:村上直也代議員]の発行に向け、システムティックレビュー、CQに関する検討を行った。
- 当会、日本産科婦人科学会、日本病理学会、日本医学放射線学会4学会共同編集「子宮体癌取り扱い規約臨床編第4版」申合せを締結し、準備を進めた。(委員:渡辺未歩代議員、戸板孝文代議員)
- 日本アイソトープ協会「アルファ線源(Ra-224線源)による悪性腫瘍に対する小線源治療の適正使用の実施要綱」の査読を行い、修正された最終版を承認した。
- 日本アイソトープ協会+関連6学会共催「ルテチウムビピボチドテトラキセタン(Lu-177)注射液を用いる核医学治療の適正使用マニュアル第1版」の内容検討について、当会がん放治推進委員会RI内用療法WG、及びガイドライン委員会にて査読を行い、承諾を行った。また、本マニュアルに基づく講習会共催の覚書を締結した。
- 2020年より日本がん看護学会合同で作成中の「急性放射線皮膚炎のケアに関するガイドライン」について、メディカルスタッフ対象の「ガイダンス」に変更、完成に向けて準備を進める旨決定した。
- 2020年がん研究開発費秋元班から共同編集依頼の「強度変調粒子線治療ガイドライン」作成について、第1次案を粒子線治療委員会と共に査読した。[出版社に協賛する旨、理事会で決定]
- 日本中性子捕捉法学会、日本医学物理学会、当会3学会編集の「ホウ素中性子捕捉療法用中性子照射装置の中性子ビーム特性評価ガイドライン(案)」を査読した。
- 各関連学会ガイドライン作成委員等として、以下の会員を推薦した。
 - 日本頭頸部癌学会「頭頸部癌診療ガイドライン」外部評価委員:吉村亮一 代議員
 - 日本アイソトープ協会「ルテチウムビピボチドテトラキセタン(Lu-177)適正使用マニュアル」諮問委員:神宮啓一 理事
 - 厚労科研全田班「全国共通がん医科歯科連携講習会テキスト」査読委員:村上直也 代議員
 - 日本泌尿器科学会「患者さん用前立腺癌診療ガイドライン」作成委員:溝脇尚志 専務理事
 - 日本核医学会「¹³¹I-MIBGを用いた核医学治療適正使用マニュアル」作成WG:神宮 啓一 理事

- 日本癌治療学会「妊娠期がん診療ガイドライン」作成委員:片野厚人代議員
- 日本婦人科腫瘍学会「子宮頸癌治療ガイドライン 2027 年版」作成委員:安藤 謙会員、伊井憲子代議員、磯橋文明代議員、梅澤 玲代議員、小此木範之会員、土田 圭祐会員、室伏景子代議員、渡辺未歩代議員、
- 各関連学会等ガイドラインの以下後援依頼の承認を行った。
日本婦人科腫瘍学会「卵巣がん・卵管癌・腹膜癌治療ガイドライン 2025 年版」(委員:磯橋文明代議員、梅澤玲代議員)/日本肺癌学会「肺癌診療ガイドライン 2024 年版」(検討委員長:石川 仁理事)
- ガイドラインの転載等の許諾申請の可否を検討した。

■ がん放射線治療推進委員会(委員長:石川 仁→中村 聡明)

- U40 小委員会:2025 年より新設の小委員会。主に 40 歳以下の若手を中心に小委員会メンバーを公募し「U40 の声を聞く」「U40 をつなぐ」「U40 の学び場」のグループに分かれて活動を開始した。第 38 回 JASTRO 学術大会における特別企画「若手～中堅放射線治療医が感じていること、考えていること、JASTRO に伝えたいこと」「U40 ブース」等準備中。
- 放射線治療看護小委員会:2025 年より新設の小委員会。がん放射線療法看護分野における人材育成、認定看護師配置等について、支援のあり方の検討を行った。また日本がん看護学会、日本看護協会との意見交換を行う旨、理事会へ上申した。
- ダイバーシティ推進小委員会:男女共同参画・働き方改革小委員会から名称変更した。2022 年のアンケート結果を Newsletter (2024 年 No. 1)で報告した。学会員からの意見収集「ダイバーシティ目安箱」への意見 3 件の対応を協議し、設置した。新たなアンケートを実施し、今回の学術大会にて報告予定。学術集会参加サポートも準備した。
- 医学生研修医セミナー小委員会:医学生・研修医のための放射線治療オンラインセミナーを 2025 年 5 月 10 日に Web 開催し 29 名が参加した。第 44 回、第 45 回医学生・研修医のための放射線治療セミナーを福岡会場 (2025 年 7 月 5 日、福岡リファレンス駅東ビル、23 名参加)、東京会場 (2025 年 7 月 12 日、虎ノ門ヒルズビジネスタワー、28 名参加)で現地開催した。また、民間医局レジナビのメール配信サービスを用いて広報活動を行った。
- 医学生研修医セミナー参加者の進路調査(フォロワー事業)について、低コスト、改正個人情報保護法に留意した方法(入会申込時のセミナー参加履歴チェックボックスを現会員システムに設置/公式 LINE によるセミナー参加者への放射線治療情報提供)を理事会に上申し、承認された。
- 医学部における放射線治療教育小委員会:昨年度作成の医学部での放射線治療用講義資料「放射線治療学・基礎編(総論)」の内容をブラッシュアップし、JASTRO ホームページに掲載準備した。引き続き「放射線治療学・臨床編」を準備中である。
- 少数常勤放射線治療医サポート小委員会:放射線治療医症例相窓口事業を開始し、1 件の相談を受付た。少数常勤放射線治療医の特集を Newsletter (2025 年 No. 1)に掲載した。第 38 回 JASTRO 学術大会特別企画「少数常勤医施設におけるチーム医療」準備中。
- 放射線治療の需要予測小委員会:「放射線治療医になろう」改訂版を検討・準備した。
- RI 内用療法小委員会:第 6 回放射性同位元素内用療法セミナーを村上祐司世話人(広島大学)の下、2025 年 2 月 22 日(TKP ガーデンシティ PREMIUM 広島駅北口)で開催、83 名が参加した。
- 日本アイソトープ協会+関連 6 学会共催「ルテチウムビピボチドテトラキセタン(Lu-177)注射液

を用いる核医学治療の適正使用マニュアル第1版」の内容検討について、ガイドライン委員会と共に査読を行った。

- 脊椎 SBRT 小委員会：第2回脊椎 SBRT ハンズオンセミナーを小出雄太郎（愛知県がんセ）世話人の下、2025年6月29日（日立ハイテク 虎ノ門ビジネスタワー）に開催し、10施設から19名が参加した。また第1回セミナー教材内容（動画）を JASTRO 会員専用 HP に掲載した（2024年9月1日～2026年8月31日）。
- がんプロ養成プラン小委員会：第4期がんプロに関連した放射線治療医養成に関するアンケートを準備した。

■ 放射線治療専門医制度委員会(委員長:古平 毅)

- 放射線治療専門医制度委員会(日本医学放射線学会と共同)を6回(2025年2月13日 筆記試験問題作成ガイダンス(web 会議)、2025年4月12日 前年度問題の確認と試験問題作成のガイダンス(横浜)、2025年5月9日・30日 試験問題ブラッシュアップ会議(東京)、2025年8月22日・23日 専門医試験実施と可否判定会議(東京)、併せて委員会メール審議を適宜開催して、放射線治療専門医に関連する協議、報告、第2回日本専門医機構認定放射線治療専門医認定試験問題(筆記問題と口頭試験)の作成、そのブラッシュアップ、受験資格の審査、他(専門医更新審査の確認等)を行った。日本専門医機構認定放射線治療専門医認定試験実施に対する準備を検討し JRS 放射線科専門医制度委員会、JRS 放射線専門医試験実施委員会との連携により対応した。
- 第2回日本専門医機構認定放射線治療専門医認定試験をホテルニューオータニ(東京)にて2025年8月22-23日に実施した(応募者55名、受験者55名)。第2回日本専門医機構認定放射線治療専門医認定試験受験者55名中の52名(94.5%)を合格とし、日本専門医機構に1次審査合格者として報告した(日本専門医機構による正式認定日は2025年10月頃(予定))。2025年8月末で更新期限となる専門医の更新(237名)、猶予(17名)、資格辞退(0名)を認定した。
- 専門医機構サブスペシャルティ連絡協議会に参加し、運用に関する情報収集を行い必要な対応について検討した。
- 各基幹施設から2022年に提出された日本専門医機構認定放射線治療領域専門研修カリキュラム・プログラムの統括責任者変更および、連携施設の追加等について、確認した。
- 第38回 JASTRO 学術大会に関しては、講習会「医療の質:治療」(放射線治療専門医(学会認定)の更新資格の必須講習)と、講習会「医療安全・放射線防護」、「医療倫理」(放射線治療専門医・診断専門医(学会認定)の更新資格の必須講習と専門医機構共通講習(必修講習)との単位併用可)の講師候補を選出して、JRS 教育委員会に推薦、「指導者講習会」の講師と座長を、JRS 放射線科専門医制度委員会に推薦した。第84回日本医学放射線学会総会に関しては、講習会「医療の質:治療」の講師候補を JRS 教育委員会に推薦した。日本がん治療認定医機構関連学会委員会に参加した。

■ データベース委員会(委員長:中村 和正)

- 構造調査
2024年度(2023年分)構造調査の実施(2024/9/30-2025/3/31 延長含む)と集計を行い、報告書(速報)の公開を行った。

➤ 症例登録 (JROD)

2024 年度(2023 年分)症例登録調査の実施(2024/9/30-2025/1/30 延長含む)と報告書を作成した。

※次期症例登録は以下の日程で行う。

[次期事業:症例登録(2024 年分)2025 年 9 月 30 日～11 月 30 日]

➤ 放射線治療コードワーキング(WG) →放射線治療試案(WG)[名称変更]

健保委員会と協同 WG にて「放射線治療試案 1.1 版」を発刊し、放射線治療コードについて検討を行った。

➤ 医療情報標準化推進協議会

基盤学会の JRS が参加しているため、8 月で協議会を退会した。

➤ RI 内用療法症例データベース検討小委員会(WG)

がん放射線治療推進委員会と協同し、RI 内用療法症例実態把握のための症例データベース運用を行った。

➤ 構造調査のデータ利用申請の審査(1 件)を行った。

➤ JIRA 経済部会放射線治療委員会と協同し、NDB データベースを用いて 1 回線量加算件数の実態把握を行った。

➤ IAEA より世界的放射線治療データベース DIRAC (Directory of Radiotherapy Centres) への情報アップデートの依頼があり、JASTRO 構造調査結果よりデータ提供のため作業を行った。

➤ 2009 年版放射線治療施設構造基準(日本版ブルーブック)改訂について、当委員会が中心となり、QA 委員会、厚労科研大西班と連携して検討を行うことが承認された。

■ 医療安全委員会(委員長:小川 和彦→佐々木 良平)

➤ AAPT TG REPORT275「放射線治療における効果的な治療計画/カルテレビューのための方策」(和訳本)を第 37 回学術大会にて希望者へ配布した。[フォロー検討中]

➤ 日本被ばく研究情報ネットワーク(J-RIME)診断参考レベル(DRL)ワーキンググループの委員として引き続き参加した。また、J-RIME から「日本診断参考レベル 2025 年版」の承認について依頼があり、検討結果を理事会に上申、承認(連名記載)を決定した。

➤ 当会予算支援下にて開発の「各施設が品質保証・医療安全に対する取り組みを自己分析可能な QI Web 解析システム」を用いた「(国内)全放射線治療施設対象の放射線治療における品質保証および医療安全の QI に関する 2024 年度調査」を実施した。

■ 学術委員会(委員長:村上 祐司)

➤ 2025・2026 年度研究課題を募集し、応募のあった 18 課題(基礎 7 課題・臨床 11 課題)を評価し、本事業の趣旨に添い、評価の高かった 2 課題(基礎 1 課題・臨床 1 課題)を理事会へ推薦し、承認された。

➤ 2023・2024 年度研究課題の中間評価を行い、理事会に報告した。

➤ 2022・2023 年度研究課題の最終評価を行い、理事会へ上申し承認後、研究代表者に通知した。

➤ 研究助成金細則の変更:採択課題数を「最大 3～4 課題」から「上限 4 課題」に変更した。

➤ 応募要項について、「大規模な研究費の獲得は難しいが放射線治療への貢献度が高いと考えられる基礎研究・臨床研究を広く募集」「若手学会員、一般病院勤務の学会員からの申請も歓迎」を追記した。

➤ 細則「研究成果の評価」条項記載の「申請により論文投稿料を補助」について、申請件数が少ないため、今後は最終報告書提出の際に論文投稿料補助について周知することとした。

- 「会員等を対象としたアンケート調査を伴う調査研究実施にかかる内規」に従い、「乳癌放射線治療の現状に関する国際アンケート調査」(第 33 回日本乳癌学会学術総会プログラム委員会放射線治療グループ)について精査・審議し、実施に問題なしと判断した。

■ 賞等推薦委員会(委員長:有賀 久哲→辻野 佳世子)

- 2025 年梅垣賞・阿部賞の公募・審査を行い、梅垣賞 1 名・阿部賞 1 名を理事会に推薦し、決定した。
- 2025 年ゴールドメダルの該当者 1 名を理事会に推薦し、決定した。
- 2025 年国内名誉会員の該当者 1 名を理事会に推薦した。(11/27 社員総会に推挙予定)
- 2026 年海外名誉会員の候補者を検討した(該当者なし)。
- 2025 年地域貢献賞の公募・審査を行い、該当者 1 名を理事会に推薦し、決定した。
- 未改訂であった阿部賞・梅垣賞規程(任意団体時施行後、未改訂)の規程について、改定案がまとめられ、理事会に上申し、改訂案が承認された。[昨年より承認の副賞の増額、推薦者の拡張(梅垣賞:個人会員 1 名)部分に加え、梅垣賞の応募資格は、個人会員(正+准会員)に拡張]
- 関連団体からの顕彰事業に関して、募集周知を行った。
2025 年度安田記念医学財団 安田医学賞/2025 年度「日本対がん協会賞」「朝日がん大賞」/令和 7 年度「日本医師会医学賞」、「日本医師会医学研究奨励賞」

■ 国際委員会(委員長:青山 英史)

- アジア放射線腫瘍学連盟 (FARO) 2025~2026 年新役員について以下、推薦を行った。
Secretary General:永田 靖代議員
- FARO LDP (Leadership Development Program) への JASTRO からの早川沙羅会員を推薦し理事会へ上申、承認された。
- 第 7 回 FARO Meeting (開催予定 2025 年 11 月 13~15 日, Chiang Mai, Thailand) に演者を推薦した。[坂中克行代議員(食道癌)、古平毅理事(頭頸部)]
- The ESTRO-JASTRO Symposium 2024(2024 年 11 月 22 日, 横浜, 第 37 回 JASTRO 学術大会内)にて開催した。[テーマ: Radioablation of ventricular tachycardia: From Basics to Clinical Practice and Future Challenges. 座長 Ben Slotman (Amsterdam UMC), 青山英史理事、演者: Cvek Jakub (Univ Ostrava, Czech Republic), Martin Fast (UMT Utrecht, Netherlands), 網野真理会員(東海大学循環器内科), 川村麻里子代議員(名古屋大学), 庄田守男特任教授(東京女子医大循環器内科).]
- ESTRO-JASTRO joint symposium (2025 年 5 月 3 日, Vienna, Austria)を開催した。[テーマ: Transforming radiotherapy through modulation of tumor immune systems,コーディネーター:原田浩代議員/座長・演者 石川 仁理事、佐藤 浩央会員]
- 第 10 回日本・台湾放射線腫瘍学シンポジウム (2025 年 8 月 30 日: 台湾・高雄市)に代表者を派遣し、演者を推薦した。[宇野理事長、青山理事/橋本孝之代議員、徳丸直郎代議員、岩田宏満代議員、村上祐司理事]
- 日中韓 Trilateral symposium を 2025 年第 38 回 JASTRO 学術大会 (2025 年 11 月 28 日, 東京)において開催する準備を行なった。[テーマ: High-precision radiation therapy for Head & Neck]
- 第 1 回 ASTRO- JASTRO シンポジウム (2025 年 9 月 30 日, Washington DC, US) を開催した。
[テーマ: Advances in Liver Cancer Radiation Therapy,/木村智樹代議員 (高知大), 水本斉志代議員 (筑波大),

青山英史理事（北大）、ASTRO: Jennifer Y. Wo (MGH, Harvard), Laura Ann Dawson (Univ. Toronto).

また、第 2 回 JASTRO-ASTRO シンポジウムの準備を行った。[2025 年第 38 回学術大会内開催は 2026 年第 39 回 JASTRO 大会へ延期]

- 日本-台湾シンポや高橋信次記念シンポ等国际シンポジウムの単独開催について、負担が大きいため、各部会、学術大会等との併催についての検討を関連委員会と共同で検討する旨、理事会へ上申した。

■ 用語委員会(委員長:有賀 久哲→辻野 佳世子)

- 2024 年度日本医学会分科会用語委員会(2025/1/15)に出席した。
- 学会ホームページ(HP)に掲載中の「WEB 用語・略語集(検索機能付)」について会員の便宜を図り用語全体を把握しやすくするために改訂毎に version をつけて管理することとした。まず現在掲載中の内容を 2024 年版 ver1.0 とし、無断での複製・配布・改変等を禁止する旨の注意書きを明記したPDF版を作成し)のHPからのダウンロード機能を追加した。
- 「用語集・略語集」2025 年版 ver.1.0 への改訂・校正・校閲を行い、会員からのパブコメの募集を行った。

■ 粒子線治療委員会(委員長:櫻井 英幸→石川 仁)

- 2024 年 11 月 18 日、2025 年 4 月 11 日、6 月 16 日に粒子線治療委員会・粒子線治療部会を開催した。
- 部会に臓器別ワーキンググループをつくり、臨床研究を推進した。
- 先進医療として実施した粒子線治療についての定期報告書作成を部会に指示した。
- 診療報酬改定のための資料作成を部会に指示し取りまとめ厚労省に提出した。
- 厚労省保険局医療課の先進医療担当者をウェブおよび対面での面談を行い、粒子線治療の実施状況を説明した。
- 2020 年がん研究開発費秋元班から共同編集依頼の「強度変調粒子線治療ガイドライン」作成について、第 1 次案をガイドライン委員会の下、査読した。[当会との協同編集ではなく、出版費を協賛する旨、理事会で決定]
- 粒子線治療部会のあり方について議論を開始し、2025 年度から粒子線治療部会として学術研究会を実施する予定とした(2026 年 7 月 24-25 日予定)

■ 医学物理士委員会(委員長:大野 達也 →神宮 啓一)

- 厚労科研「放射線療法の提供体制に資する研究(研究代表者:大西理事)」における「IMRT 施設基準の緩和:物理技術専門職に関する体制」の進捗を共有し、引き続き委員会として協力することに合意した。
- 放射線治療品質管理機構が取りまとめている放射線治療計画業務補助者の教育/研修体制の構築に関する関連団体協議に参加し、依頼のあった「確認・試験作業部会」への放射線治療医を推薦、理事会へ上申し、決定した(村上祐司理事、安田耕一代議員)。
- JASTRO 医学物理士委員会(2025/6/11)を開催し、医学物理士の雇用、IMRT 施設要件における医学物理士の位置づけ他、問題点の再整理と活動内容等を検討した。

■ 健保委員会(委員長:大西 洋→櫻井 英幸)

- 2024 年 11 月 18 日、2025 年 2 月 3 日、4 月 12 日、健保委員会を開催した。
- 令和 8 年度(2026 年)診療報酬改定に関わる諸作業を行い、医療技術提案書を提出し、7 月 17 日に

厚労省保健局医療課のヒアリングを受けた。

- 診療報酬改定に関連した調査、内保連との連携、外保連への加入、対政府との交渉を行った。
- 会員からの健保に関する質問事項にメールで個別に回答した。
- 放射線治療コードワーキンググループとして、放射線治療コードの策定作業を進め、「放射線治療試案 1.1 版」として出版した。
- 特定資金事業「放射線治療費用対効果分析事業」を推進した。(2025 年度まで延長)
- 厚生労働科学研究費補助金(がん対策推進総合研究事業)「放射線療法の提供体制に資する研究」(研究代表者; 大西 洋会員/第 2 期 2023~2025 年度)における「放射線治療計画支援者: 物理技術専門職に関する体制」について、医学物理士委員会・QA 委員会に協力を依頼し連携して進めた。

[本厚労科研は、強度変調放射線治療、定位放射線治療、粒子線治療、ホウ素中性子補足療法、密封小線源治療、核医学治療等について、あるべき提供体制について検討作業を進めている。]

■ 渉外・関連学会委員会(委員長:佐々木 良平→鈴木 義行)

- 第 37 回 JASTRO 学術大会の発表演題の中から、他領域関連学会の発表候補者(助成対象者:海外優先枠 3 名/国内 12 名)15 名を選出し、今年度は発表者(計 10 名)に補助を行った。
- 「他領域関連学会発表助成事業:内規」改訂について、現内規の発表補助の対象は学術大会全演題(45 歳以下の筆頭演者)となっているが、「演題登録時に助成希望の有無確認欄を設置し、希望者の中からの選考」に変更すること、また助成金(上限額)は国内学会 5 万円、国際学会 20 万円等を規定しているが「国内学会と国際学会を問わず同一 7 万円」とし、助成対象となる費目に「ポスター印刷費」等を追記、その他文言の修正案を理事会へ提案し、2026 年度助成対象者から適用する旨が承認された。
- 第 79 回日本食道学会学術集会(2025 年 6 月 27 日)において合同企画[放射線治療に伴う毒性とその対策/座長:宇野隆理事長、石川仁理事/演者:石田俊樹会員、磯崎哲朗会員)を共催した。
- MOU に基づき、第 67 回日本影響学会学術大会(2024 年 9 月 2 日)合同シンポジウム[「放射線治療の現状と生物学的評価」/当会オーガナイザー:大栗隆行代議員、座長:塩山善之理事、平山亮一会員、演者:皆巳和賢会員、吉田由香里会員、松延亮会員、松本孔貴会員]を共催し、第 38 回当会学術大会における合同シンポジウムコーディネーターとして、原田浩 代議員を推薦、理事会にて承認した。
- 第 23 回日本臨床腫瘍学会学術集会(2026 年 3 月 26-28 日)「JSMO-JASTRO 合同シンポジウム」コーディネーターとして辻野佳世子理事を推薦、理事会にて承認した。
- 「JASTRO 共催・協賛・後援等の依頼等に関する取扱規程」に基づき、各関連学会・団体よりの後援・協賛・共催依頼を以下審議し、理事会へ上申した。

- 前立腺癌患者の会:「Mo-FESTA CANCER FORUM (2025/11/22)」[共催]講師:神宮啓一理事推薦
- 日本アイソトープ協会依頼
- 第 62 回(2025/7/24)アイソトープ・放射線研究発表会[協賛]
- ヨウ素 125 シード線源による前立腺癌永久挿入密封小線源治療安全管理・技術講習会/高線量率ラルス医療安全取扱講習会(2025/2/19-3/10)[共催]

[以下、関連学会合同講習会[共催承認]と、覚書の作成・締結を行った。]

- 塩化ラジウム(Ra-223)注射液を用いた RI 内用療法における適正使用に関する安全取扱講習会
- I-131 (1,110MBq) による残存甲状腺破壊(アブレーション) 外来治療における適正使用に関する講習会
- ルテチウムオキシドトレオチド(177)注射液を用いた核医学治療の安全取扱講習会

- ヨードベンジルグアニジン（131）注射液を用いた難治性 PPGL に対する核医学治療の安全取扱講習会

■ 施設認定委員会(委員長:小川 和彦→佐々木 良平)

- 2024 年第 9 回 JASTRO 施設認定申請の 52 施設(更新:42 施設、新規:10 施設)について審査および合否判定を行った。
- 新規認定施設をホームページに追加掲載した。
- 認定施設要件を満たさなくなった施設及び追加審査についての審議・対応を行った。
- 認定施設申請増加の PR(現認定施設総数 271 施設)、ホームページ改訂等について検討を行った。
- 規程施行細則第 4 条に基づき、認定施設の訪問実地調査(1 件)を実施した。
- 2025 年第 10 回 JASTRO 認定施設の新規申請(8 施設)ならびに更新申請(対象 161 施設)の受付を行った。

■ 緩和的放射線治療委員会(委員長:高橋 健夫→塩山 善之)

- 第 37 回 JASTRO 学術大会(2024 年 11 月 21 日～23 日)における緩和的放射線治療に関するシンポジウム「緩和的放射線治療最前線」の発表を行った。
- 第 38 回 JASTRO 学術大会(2025 年 11 月 27 日～29 日)における JASTRO と日本緩和医療学会による合同シンポジウム「緩和医療の緩和治療のダイバーシティー：放射線治療・薬物療法・IVR・神経ブロック・看護」のテーマや内容および座長・演者などについての検討を行った。
- 第 30 回日本緩和医療学会学術大会(2025 年 7 月 4～5 日)において、一般社団法人 がん医療の今を共有する会 (ACT) と協力の上で共催セミナー「緩和的放射線療法普及のために～地域連携・院内連携の成功事例から学ぶ～」を行った。
- 緩和ケア関連団体会議(2024 年 12 月 5 日・2025 年 7 月 15 日 Web 会議)に出席し、緩和ケアに関する意見交換や情報共有を行った。
- 厚生労働科学研究費補助金(がん対策推進総合研究事業)「放射線療法の提供体制構築に資する研究」(研究代表者:大西会員/研究分担者:高橋会員)に関して、本委員会として引き続き研究の支援を継続し、新たなアンケート調査などの準備を行った。
- 厚生労働省科学研究補助金(がん対策推進総合研究事業)「がん関連苦痛症状の体系的治療の開発と実践および専門的がん疼痛治療の地域連携体制モデル構築に関する研究」(研究代表者:里見 絵理子氏/研究分担者:高橋会員)について「専門的がん疼痛治療の地域医療連携体制構築に関する研究・放射線治療」の研究を支援した。
- 厚労科研 里見班・大西班とともに緩和的放射線治療の診療連携において具体的に参考となるモデルや好事例をまとめた「緩和的放射線治療普及のための好事例集」を作成し、JASTRO の学会ホームページへ掲載するとともに、周知用リーフレットを作成し、JASTRO 学術大会会場で配布した。併せて全国のがん診療連携拠点病院、医師会、都道府県がん対策部局へ送付した。
- 緩和的放射線治療に関する診療ガイドライン「がんによる症状の緩和のための放射線治療ガイドライン」の作成の準備を進めた。
- 胃がん患者の商用レセプトデータを用いて、出血性胃がんに対する緩和的放射線治療について医療経済評価研究の米国放射線腫瘍学会(ASTRO)2025 への発表および論文文化に向けて準備を進めた。

- 骨転移に対する緩和的放射線治療の医療経済評価についての研究の論文化に向けて準備を進めた。
- 胃癌治療ガイドライン第 7 版における止血照射の臨床的・クエスチョン新設と重要な役割を果たした「JROSG 17-3 研究」について、Journal Club で JASTRO 会員へ周知を行った。
- 日本緩和医療学会へ緩和ケア研修会 e-learning モジュール改訂のための委員として JASTRO より大久保悠代議員を推薦した。

【管理部門】

■ 倫理委員会(委員長:高橋 健夫→村上 祐司)

- 役員等の利益相反自己申告書の審査を行い、問題のない事を確認した。
- COI 申告管理のオンライン化を実施した。(会員管理システム内設置)
- 利益相反に関する指針施行細則「第 2 号本学会機関誌等での発表:著者の利益相反自己申告書」改訂:投稿論文の利益相反自己申告書(様式 2)について、日本医学会採用「ICMJE DISCLOSURE FORM2021」を当会 JRR 誌において既に当該フォーム運用を開始しており、これに即した細則の改定案を理事会へ上申し、改訂した。
- 2025 年 5 月 1 日開催の日本医学分科会:第 9 回研究倫理教育研修会[テーマ:変貌を遂げる研究倫理のアップデートとその啓発]に参加し、理事会へ報告した。

■ 規約委員会(委員長:大野 達也→鈴木 義行)

- 委員会細則・委員会規約における附則の施行年の表記統一につて、定款細則の記載に合わせ、現在の「和暦」のみの表記から「西暦(和暦)表示」とする旨、理事会へ上申し、承認された。
- 「財務・総務委員会」の「財務委員会」「総務委員会」への分割にあたり、財務委員会、総務委員会の新規規約を理事会へ上申し、承認された。
- 阿部賞・梅垣賞の次回規程改定に向けて、委員会で案を検討した。

2025/1/17 理事会以降、「財務・総務委員会」を「財務委員会」「総務委員会」に分離。

■ 財務・総務委員会(以下*の事業)→財務委員会 (委員長:溝脇 尚志)

- 今年度(2024 年度)の予算に基づき、各事業等の 2024 年度会計を執行し、(委員長による支払いの確認・チェック実施含む)2024 年度決算案の準備をおこなった。
- 次年度(2025 年度)新規予算・事業計画案について、総務委員会と共に、予備審査(8 案件)を実施し、審議結果を理事会へ上申し、承認された。また、総務委員会と共に 2025 年度各委員会・部会・セミナーよりの一般予算案・計画案の予備審査(43 案件)を実施し、理事会へ上申し、承認された。
- 公益活動費(旧:特定費用準備資金)計画変更案について理事長を補佐し、健保担当理事と共に作成した。
- データ利用申請(7 件)の総合審査を(専務理事として)実施した。
- 学会案件において役員等が関係省庁・各団体との面談をする際、内容を共有できるよう理事会に報告する書式を作成した。(*)
- 総務委員会と共に次年度の各関連団体への拠出金の継続の可否について検討を行い、取り扱い案を理事会へ上申しした。

■ 財務・総務委員会(以下*の事業)→総務委員会(委員長:大野 達也)

- 会員の入会動向・審査の取りまとめを行った。(*)
- 各委員会の委員長・委員の改選の取りまとめについて、理事長・専務理事の補佐を行った。
- 外部団体への委員推薦案を理事会へ上申した。
- 理事会運営準備等について、理事長・専務理事の補佐を行った。
- 「役員等関係省庁・各団体との面談報告書」(11 件)を理事長・専務理事と共に確認し、理事会へ報告を行った。
- 各関連学会・各団体(旧財務・総務委員会*:前立腺癌患者 PSMA を標的とした核医学診断・治療早期国内導入等要望 /厚労省:安定確保医薬品見直し提案→I-131) / 難治性心室頻拍に対する革新的放射線治療への協力依頼等)や会員からの要望(学術大会等の企業共催セミナー動画二次利用、賛助会員の各委員会オブザーバー参画要望等)に対して対策を検討し、理事長・専務理事補佐を行った。
- 放射線治療品質管理機構より依頼事項:新 IMRT 施設要件「現行の技術専門職認定者と本技術専門職の在り方、望ましい制度及び「財務・将来計画委員」推薦(大西洋監事/神宮啓一理事)について、提案を理事長・専務理事と共に検討し、理事会へ上申した。
- 2023 年度総会で議論された代議員提案事項の検討方法等理事会へ上申した。
- 財務委員会と共に次年度の各関連団体への拠出金の継続の可否について検討を行い、取り扱い案を理事会へ上申した。

■ 将来計画委員会(委員長:宇野 隆)

- 総務委員会と共に、以下課題ごとに将来計画案を立案した。(理事会へ上申予定)
 - ①ダイバーシティ(次期選挙ダイバー代議員枠の適正数、新たな代議員枠の提案等)②行政対策(当会での実施事項検討)③部会・セミナー・ハンズオン等合同開催(今後の合同開催と可能性を検討)
 - ④特任理事(定義、推薦理事との棲み分け、選出方法、分野(物理技術、地域医療対策、若手、ダイバ)の選択、コスト増対策等)⑤若手等の理事会陪席制度(ルール、システム等検討)
- AI-WG(委員長:村上祐司理事)活動:独自 WEB システム上にデータサーバを構築、研究実施許可を得た実務担当 5 施設にて試運用を開始(Ⅲ期肺癌データ約 380 例を登録)した。
- 厚労省『第 16 回がん診療提供体制のあり方に関する検討会(2024/12/23)』に参加(理事長)し、「2040 年を見据えたがん診療提供体制の構築:医療提供体制の均てん化・集約化に取り組む医療イメージ(放射線治療案)」について、専務理事、総務担当理事と共に検討し理事会へ上申し、厚労省へ提出した。
- 放射線治療における物理・技術系資格認定制度の整理・統合の検討会を将来計画委員会下のWGとして設置する旨、理事会へ上申・決定した。(WG 長:溝脇専務理事)

【学術大会】(第 37 回学術大会大会長 大西 洋→第 38 回学術大会大会長 櫻井 英幸)

- 第 37 回学術大会を 2024 年 11 月 21 日～11 月 23 日、パシフィコ横浜ノース(横浜市)にて「至誠慧眼」をテーマに開催した。
- 2024 年 12 月 11 日～2025 年 3 月 31 日までオンデマンド配信を行った。
- オンサイトでの有料参加人数 3,214 名(内 オンデマンド視聴のみ参加者 428 名)
- 第 37 回学術大会報文集を発行した。

- 第 38 回 JASTRO 学術大会（2025 年 11 月 27 日～29 日）の準備を行った。

【部 会】

■ 小線源治療部会（担当理事/部会長：大野 達也）

- 小線源治療部会会員数：638 名。
- 小線源治療部会第 27 回学術大会を開催した[2025 年 5 月 16～17 日/吉田謙大会長/和歌山県・ホテルシーモア/参加者：302 名、WEB 参加 141 名]。
- 第 3 回小線源治療ハンズオンセミナーを教育委員会と共催した[2024 年 12 月 21 日/伊井憲子世話人/京都府立京都学・歴彩館/参加施設：10 施設 45 名]。
- 欧州・北米共催の「小線源治療啓発デー（2025 年 7 月 17 日）」メッセージ配布活動に参画した。
- JASTRO ニュースレター（NL）小線源部会のコーナーへの寄稿に協力した。
- 線源強度計測の実施状況や問題点を調査するため「高線量率密封小線源治療 線源強度計測に関する全施設調査」を実施した。
- 新「小線源治療技術指導医師推薦事業」について、書式、運用指針等を学会員専用ホームページ（HP）に掲載し、募集を開始した。
- 部会作成「教育用動画」について、HP 掲載前チェックリストを作成した。
- 厚生労働科学研究費補助金研究（がん対策推進総合研究事業）「放射線療法の提供体制構築に資する研究」において、研究項目「小線源治療提供体制の現状と課題」を担当した。
- 部会通則に基づき、役員改選を実施した。
- 日本アイソトープ協会より「医学・薬学部門 放射線治療専門委員会専門委員（密封小線源治療検討及び安全取扱講習会企画）」の推薦依頼があり、吉村亮一 部会幹事の推薦を理事会へ上申し、決定した。また、本協会と「密封小線源治療安全取扱講習会共催に関する覚書」を締結した。

■ 生物部会（担当理事：石川 仁 /部会長：原田 浩）

- 生物部会会員数：523 名
- 第 62 回生物部会学術大会・第 53 回放射線による制癌シンポジウムを開催した。[2025 年 5 月 30～31 日/石川 仁世話人（QST 病院）/富士ソフトアキバプラザ/参加者 160 名（有料 133 名）]。
- 第 15 回放射線生物学セミナーを、教育委員会との共催にて、ハイブリット開催+オンデマンド配信した。[ハイブリッド開催：2025 年 3 月 1 日、オンデマンド配信：2025 年 3 月 10 日～4 月 1 日/テーマ：放射線感受性の多様性～組織、環境、個人差/松本義久世話人（東京科学大学総合研究院）/東京科学大学 大岡山キャンパス+WEB/参加者 80 名（有料）/オンデマンド配信あり]
- 各ワーキンググループ（①放射線生物学セミナーWG ②学術 WG ③広報 WG ④トランスレーショナルリサーチ推進 WG）において、活動を行った。[各 WG による主な活動は以下の①～④の通り。①上記の学術集会を開催した。②Journal Club にて、臨床に関連した放射線生物学的トピックスを扱った論文を 2 ヶ月に 1 回紹介した。また、がん放射線治療推進委員会が作成した教育用スライドの内容を精査し、学術的に修正が必要な点を整理して上申しした。③関連学会の紹介を中心に、放射線生物学研究の面白みや研究哲学等に関する記事を、JASTRO News Letter にて紹介した。④「放射線治療に対する Exceptional response を規定する分子遺伝学特徴を明らかにする他施設共同研究」については、10 施設からの症

例登録と臨床情報の収集を終えて臨床データを固定し、ゲノム解析を開始した。JCOG2108「非小細胞肺癌術後限定個数再発に対する全身治療＋局所治療の有効性を検証するためのランダム化第 III 相試験」の附随研究との位置づけで、臨床的な主要評価項目および副次評価項目を補完するバイオマーカーとして血 ctDNA ゲノム解析の臨床的有用性および意義を検討する研究を開始した。しかし症例登録が芳しくないため、プロトコールの一部を変更して実施中。

- 第 38 回 JASTRO 学術大会（2025 年 11 月 27 日～29 日）における部会企画の検討・準備を行った。
- 日本放射線科学連合（JARR）より、International Congress for Radiation Research 2031 の日本招致の可否について照会があったが、生物部会としては招致に積極的でない旨を回答した。

■ 高精度放射線外部照射部会（担当理事：溝脇 尚志/部会長：大西 洋）

- 高精度部会会員数：831 名。
- 第 38 回学術大会を開催した[2025 年 5 月 24-25 日/青山英史世話人（北海道大学）/ホテルライフオー ト札幌/参加者：523 名]。
- 前年度改訂された「強度変調放射線治療（IMRT）臨床的ガイドライン 2024」について、保険診療上の運用について検討した。
- 部会分科会：第 4 回日本 MR 画像誘導適応放射線治療研究会を開催した [2025 年 6 月 21 日/井垣 浩 世話人（国立がん研究センター中央病院）/国立がん研究センター築地キャンパス/参加者 143 名]。
- 第 39 回学術大会を開催することを決定した[2026 年 3 月 14 日（東京・御茶ノ水）/武田篤也（慶應義塾大学）世話人]。
- 国際シンポジウム（FARO, 高橋信次記念シンポ）との併催について、検討を行った。
- 厚労科研・大西班（放射線治療提供体制の構築に資する研究）での必要なアンケート調査について、該当する調査を本部会内で実施した。
- 部会通則に基づき、役員改選を実施した。[新部会長：溝脇尚志 部会員 2025/9 月～]

■ 粒子線治療部会（担当理事/部会長：櫻井 英幸）

- 粒子線部会会員数：275 名
- 2024 年 11 月 18 日、2025 年 4 月 11 日、6 月 16 日に粒子線治療委員会・粒子線治療部会を開催した。
- 臓器別ワーキンググループをつくり、臨床研究を推進した。
- 診療報酬改定のための資料を作成し厚労省に提出した先進医療会議からの質問に対して対応した。
- 先進医療の実施状況の報告のため定期報告書を作成した。
- 粒子線治療に関する医療評価技術提案書の作成を行い健保委員会に提出した。
- 粒子線治療部会のあり方について議論を開始し、2025 年度から粒子線治療部会として学術研究会（部会学術大会）を実施する旨決定とした（2026 年 7 月 24-25 日開催予定）。
- 「日本粒子線治療臨床研究会」より、活動終了後（2025 年 10 月以降研究会解散予定）JASTRO 粒子線部会への寄附と、調査事業継続の要望があり、理事会へ上申した。
- 部会通則に基づき、役員改選を実施した。
- 第 38 回 JASTRO 学術大会（2025 年 11 月 27 日～29 日）における部会企画の検討・準備を行った。